

2007年3月27日

日本地質学会 会長 木村 学

2006年度第10回理事会 議事録

期 日：2007年3月10日（土）12:00～17:45

場 所：地質学会事務所

出席者：木村会長，伊藤副会長，佃副会長，天野副常務理事・上砂・Wallis・大友・狩野・公文・高橋・久田・宮下・向山 各理事，橋辺（事務局）

欠席理事：，渡部常務理事・倉本・中山・増田

* 成立員数(12/17)に対し，出席者13名，委任状2名，欠席者2名で，理事会は成立。

報 告

1. 運営財政部会（部会長-上砂，中山，向山，大友）

総務委員会（委員長-上砂）

庶務関係（担当理事 上砂）

- ・ UNESCO 科学委員会委員の推薦について，広く募集の呼びかけをおこなったところ，仲谷英夫会員，井内美郎会員の応募があり，久田理事から国内委員会へ推薦した。
 - ・ 以下のアンケートに応えた。
 - 1) 学術会議：学協会の機能強化方策検討のための学術団体調査に回答
 - 2) 筑波大学人文社会科学研究所文部科学省特別推進G：社会団体に関する特別調査に回答
 - 3) 科学技術振興機構：会議開催予定，発行刊行物に関する調査に回答
 - 4) 全地連より，土木地質図の新名称についてのアンケートがあり，応用地質部会，横田部会長の意見を参考に回答した。地質学会としては，候補名称の「工学地質図」を支持した。（別紙資料参照 p.1）
 - ・ 科研費審査委員候補者データベース登録者の推薦については，下記のとおり推薦した。
天野一男，WALLIS Simon，大友幸子，狩野謙一，倉本真一，佃 栄吉，久田健一郎，藤本光一郎，渡部芳夫（以上9名）
 - ・ 学術会議 IGU 分科会より，国際地理学連合(IGU)の役員会開催に伴うレセプションへの出席要請があった。4月6日（金）18:30より
 - ・ 日本粘土学会，第51回粘土科学討論会（9月12-14日）の共催依頼があり，例年通り承諾した。→ news 誌，HP に掲載
 - ・ 産総研と平成19年度の共同研究の継続契約を2月26日付で交わした。
研究課題：地質科学分野におけるオンライン化の将来動向に関する研究
研究費：H19年度分¥1,299,500（産総研規定の管理費を除く113万円全額を人件費に充当）
 - ・ 学術振興会より，平成20年度の特別研究員募集案内があった。→ news 誌，HP に掲載
 - ・ BP社より，2月2日にWiley社との合併が承認されたとの報告があった。
- <外部の賞>
- ・ 東レ科学振興会：18年度各賞の授賞式への招待 3月19日(月)→ 欠席
 - ・ 東レ科学振興会：19年度各賞の募集概要 → HP に掲載
 - ・ 日本発明協会：19年度地方発明賞の募集案内 9日(月)

会員関係（担当理事 中山）

1) 入会の承認（ただし、入会年度は本人の希望により振り分ける。）

正会員(1名)：佐藤 明

院生割引会員(3名)：佐々木陵多 高橋健一 入江美沙

2) 退会者(79名, 3月末で退会)：青木和子, 秋元 梓, 熱田雅信, 安彦宏人, 新井 徹, 安斎正人, 安藤善之, 飯泉克典, 家永浩平, 石橋 澄, 市川暢子, 出澤 茂, 伊藤通玄, 伊藤通義, 井上多津男, 井上友博, 井上陽一, 入佐純治, 岩田圭示, 岩根定晴, 鶴飼宏明, 内瀬戸信彦, 圓藤弘典, 尾芦裕子, 小野洋, 小幡真弓, 加藤信一, 加藤法彦, 金山 憲勇, 河原大輔, 菊地 喜雄, 木田昌宏, 木谷清一, 栗谷将晴, 黒川明, 黒川将, 坂井栄信, 佐藤幸二, 島内哲哉, 島木健哉, 小豆政直, 杉山茂夫, 鈴木隆介, 鈴木雅博, 鈴木正哉, 瀬谷正巳, 添田雄二, 曾根大貴, 曾武川博道, 多井義郎, 高階 義大, 高貫 潤一, 高橋興世, 武居由之, 竹村貴人, 田中真治, 田中尚, 田中芳則, 千葉努, 円谷博明, 寺平宏, 陶野郁雄, 富田克敏, 能田成, 橋本義之, 早坂祥三, 林 衛, 原 衛, 針生真也, 広渡文利, 藤本 善航, 松隈明彦, 松下芳浩, 宮下治, 山田晃, 山田正春, 山中寿朗, 山本和幸, 渡部景

3) 2月末現在会員数

賛助 34, 名誉 74, 正 4482 (内, 291 院割), 学生 44, 合計名 4,634 (昨年比 -132)

4) 2月22日, 運営財政部会(会員)を開催し, 今後の会員増に資するため, 過去数年の入会状況について調査した。(別紙資料参照 p.2)

4月の理事会で会員増加対策の原案を提示し, 検討する。

関連学会連合(担当理事 天野)

・地理関連学会連合

総会(3月19日(月) 12時から)への出席要請があり, 天野理事が出席する。

地球惑星科学連合(久田連絡委員)

・地惑連合：国際地学オリンピック小委員会(久田委員)報告(別紙資料参照 p.3-6)

日本は第3回から参加する方向で検討する, 事務局の設置が課題, 本年韓国(第1回開催)での予備的な話し合いに熊野委員長と久田が出席する予定, 国内のサポート体制構築が重要である。

学術会議関係報告(木村会長=連携会員)

・IUGS分科会を申請中。

・地球惑星分科会：大学へのアンケート, 学協会の機能強化方策検討ためのアンケート実施。今後, これをもとに検討する。

・IGCP国内委員会(2/27)開催：委員長は土隆一氏から波田重熙氏に交代, 幹事は斎藤文紀氏となった。

会計関係(担当理事 向山)

- ・06年決算予想, 07年予算案について検討。(別紙資料参照 p.7-10)
06年決算予想では会費収入がかなり下回っている。07年度予算案は昨年度とほぼ同規模。年度内の事業として箱根のリーフレットなどを見積もり予定。
- ・札幌大会の参加登録費などの個人費用負担について, 高知大会の反省を踏まえて検討した。

広報委員会(担当理事 大友)

インターネット運営小委員会(委員長-坂口有人)

ホームページのリニューアル(案)について検討結果の詳細が報告された。

基本的な構造は以下のようにする。

- ・システムの問題：フレーム構造をやめる

- ・担当管理者パスワードの問題：パスワードの共有をなくす。
 - ・レイアウト，デザイン，コンテンツ情報は別にする(XHTML方式にする)
 - ・サーバー⇒ サイト用データベース，会員管理システム，メール(メルマガ) + 支部・部会データ，
 - ・支部・部会管理者，事務局・インターネット委員会がブラウザで管理
- コンテンツについて，これまでの検討内容の紹介があり，会員にとって，また，外部からの訪問者にとって魅力あるホームページになるよう，内容を検討したとのことであった。

2. 学術研究部会（部会長-久田，公文，増田）

行事委員会（久田委員長）

1) 札幌大会関連

- ・就職活動支援プログラム案について向山委員から説明された。（→ 別紙資料参照 p. 12-15）

開催日： 9月8日(土)，午後実施。

会場： 北大内，北大のキャリアセンターの支援を得る努力が必要。

協力： 全地連の協力を得る。実施内容案を提示し，担当者とすり合わせを行う。

参加社： 地質学会賛助会員，全地連加盟企業，資源・エネルギー関係企業にも連絡。

- ・Alumni（同窓会）の準備委員会よりの開催案については，概ね了承されたが，会費等について多少議論があり，伊藤理事が準備委員会や北大生協との話しをつめることとした。

9月9日 20:00-21:00（懇親会終了後）に実施する。

- ・準備委員会から，見学旅行案内書の冊子体作成について文書による要望が寄せられた。

（→ 別紙資料参照 p. 16）

前回の理事会で，見学旅行案内書は地質学雑誌の補遺としてCD-ROM版の発行のみに限定したが，札幌の準備委員会から，冊子体での発行を強く希望するとの要望書が寄せられた。これについて再度検討し，今年度は高知大会並みの白黒版で500部を印刷することとした。経費的にはかなり厳しいので，赤字を出さぬよう，準備委員会としても販売努力をしてもらうよう要請することとした。昨年同様，事前予約販売とする。

また，編集に際しては，露頭には，GPS情報を入れるよう要望する。編集・査読体制については，昨年通りとする。

- ・地質情報展

9月7,8,9日に北大で実施する。

全地連6,7日開催から連続の行事となるのでジオウィークの設定や，

札幌駅のコンコースに案内等を出すことも検討してはどうか。

2) 秋田大会

- ・久田行事委員長が東北支部例会（17,18日）の機会に説明に行くことを伝えた。

東北支部総会(秋田大)に久田，大友が参加して，説明する。

新学会，鉱物科学会との連携開催について，具体的な意見を交換してくる。

専門部会連絡委員会

国際交流委員会（公文 国際特任理事）

- ・IGCP委員に仲谷英夫会員，井内美郎会員を推薦する。
- ・韓国地質学会総会の招待について，会長に代わり佃副会長の出席を要請。
- ・今後の交流の日韓窓口メンバーを提示する。

地質環境の長期安定性に関する委員会（委員長-吉田英一）

- ・札幌大会でシンポジウムを企画している。

3. 編集出版部会（部会長-狩野，久田，宮下，Wallis）

地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野 副委員長-久田，宮下=企画担当）

- ・今月の編集状況は以下の通りです（3月9日現在）。

- 113-3 : 論説 3・短報 1・口絵 1 (約 50p 校正中)
113-4 : 論説 3 (約 40-45p) ほか未定 (入稿準備中)
2007 年度投稿論文総数 10 編 [論説 5 (和文 5), 総説 1 (和文 1), 短報 4 (和文 4),] 口絵 1 (和文 1) ※うち 7 件が電子投稿
投稿数昨年比 -4 査読中 34 編
・紀伊半島特集号は全 9 件のうち 6 件が受理. 残り 3 件査読中.

Island arc 編集委員会 (担当理事 Wallis, 事務局長 竹内圭史・角替敏昭)

【編集状況】

3月9日現在の IAR 関係の各種状況

1. 編集状況

2007 年 16 巻の年間契約ページ数 576 (～最大 620) p

1号 Pictorial 1 編, 宮崎特集論文 6 編 79 p, 一般 8 編 127 p, 訂正 1 p, 口絵 3 p
計 209 p 見込み.

18 年度では計画 540 p に対し 536 p. ページ数調整のため 2 編 29 p を 2 号に送った.

2号 一般 7 編 106 p 予定. もう 1 編追加も検討. 入稿期限は 3 月 23 日.

3号 一般 2 編 30 p, 5 月末受理のフィリピン海特集 9-10 編 135 p が入る予定. 入稿期限は 6 月末. (一般分を 2 号 4 号に振り分けるか)

4号 : 一般 6 編 90 p + Index 等 2 p 総計 572 p

2. 特集 フィリピン海特集 : 論文 17 編, 受付済み 12 編のうち筆頭藤岡 3 編を除く 9 編を査読中.

5 月末時点の受理相当原稿で特集を編成し 3 号に掲載する.

板谷特集 : 論文 13 編前後, うち 2 編受付済み. 08 年 1 号見込み.

久田より特集の打診あり

3. オンライン投稿

07 年 2 ヶ月余で投稿 23 編 (うち特集 12 編) あり好調を維持.

12 編が査読/再査読結果著者戻し, 21 編が査読/再査読中. 受付中 4 編.

システムへの登録 : 総数 330 名. 著者 175 名 + 査読者 88 名 + 編集関係者 67 名 (うち Guest Editor 5 名).

4. Island Arc Award について

選考検討委員会において候補者を決定し, 選考委員会に報告した.

4. 普及教育事業部会 (部会長-高橋, 倉本)

地学教育委員会 (委員長-阿部国広)

箱根の国立公園リーフレットは, 今年度の予算で出版することで準備を急いでいる.

- ・地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」

5. その他

ジオパーク推進委員会 (担当理事, 佃委員長)

第 4 回ジオパーク推進委員会の報告.

【以下, 評議員会の下委員会】

名誉会員推薦委員会 (伊藤副会長)

- ・1 月末推薦締め切りの名誉会員候補推薦者の審議を開始した.

各賞選考委員会 (委員長 酒井治孝)

- ・1 月末に推薦を締め切り, 各賞選考を開始した.

- ・地質学会賞，国際賞，小澤賞，柵山賞の推薦があり，選考検討委員会を設置し諮問した．同委員会委員長は互選により木村会長となった．
委員氏名：木村学，齋藤靖二，加々美寛雄，鈴木和博，嶋本利彦，平 朝彦，小川勇二郎，巽 好幸，渡部芳夫，狩野謙一，石渡 明，WALLIS Simon，小畑正明，松本 良

法人化実行委員会（委員長—齋藤靖二）

- ・齋藤委員長からの報告を木村会長が説明した．（→ 木村会長）

法務委員会（担当理事：委員長 上砂）

- ・「日本地質学会プライバシーポリシー」（案）の修正について，メール会議などを利用して検討し，答申の最終案を作成した．（別紙資料参照 p. 17）

6. 4 役会議審議内容

- 1) 札幌大会について，同窓会，見学旅行案内書，就職支援，その他
- 2) Island Arc 二重投稿問題について

○審議事項

1. 総会議案について（別紙資料参照 p. 18）

議案は原案通り了承された．news 誌3月号に開催を会告，議案を掲載，議案の内容がまとまれば4月号に掲載．議案は原案通り

2. 新評議員会の開催について

日時：5月20日（日）19:00 から約1時間（総会終了直後）

議題：議長の選出，各賞選考委員の選出（半数改選）

会場は総会会場を予定．

3. 札幌大会の参加登録費等の設定について

年会運営費の要となる参加登録費については，事前申し込みと当日参加，会員と非会員の差をはっきりさせ，会員であることのメリットが感得できるよう配慮した．以下の金額を了承した．

参加登録費：正会員＝7,500 (9,500)，院生割引＝4,500 (6,500)，名誉会員＝500 (500)，
50年会員 500 (500)，準会員（非会員学部）＝500 (500)，非会員一般（院生含）＝12,000
(15,000)

予稿集別売り代：正会員＝3,000 (4,000)，院生割引＝3,000 (4,000)，名誉会員＝3,000
(4,000)，50年会員 3,000 (4,000)，準会員（非会員学部）＝3,000 (4,000)，非会
員一般（院生含）＝4,000 (5,000)

懇親会：正会員＝5,500 (6,500)，院生割引＝2,000 (3,000)，名誉会員＝2,000 (3,000)，
50年会員 2,000 (3,000)，準会員（非会員学部）＝2,000 (3,000)，非会員一般（院生
含）＝5,500 (6,500)

※（）は当日支払い．単位は円．

4. 地質学会プライバシーポリシーについて

法務委員会からの最終答申については，理事会として承認．評議員会に議題として提出する．

5. ホームページのリニューアル(案)について

- ・ホームページリニューアル版構築費として一部費用を今年度予算から支出する．
- ・STLive 社 C案 (146万円) あるいはD案 (169万円) を導入することとし，詳細は委員長が業者と具体的に交渉する．

- ・会員の情報の登録，修正や閲覧を，会員が HP を通じて行うということについては，総務部会（会員，会計）で早急に検討する．
- ・HP への投稿規程案の概要について報告を受け，基本的な部分については了承した．内容の詳細は，法務委員会で検討し，次回理事会で決定する．
- ・支部・部会の URL を地質学会のドメインに統一するよう，支部，部会に依頼して了解を得る．
- ・札幌大会前に，新しいシステムに完全移行する．

6. 地質学雑誌の発行改善について（継続審議）

地質学雑誌への投稿者の減少，原稿不足の現状から，発行を隔月刊にすることなどについて議論した．現在の刊行の現状と議論の内容を，ニュース誌で会員に周知させる必要がある．

- ・自由な意見交換を行い，次のような意見が出た．
 - 〈Island Arc のハードコピーを全員に配布し，年間 12 冊の配布としたらどうか．
 - 〈会員サービスの低下についてどう考えるか．Island Arc の配布ではサービスの低下と，とらえられないか？
 - 〈最大限の努力をして，これまでどおり，12 冊は確保すべきである．掲載論文の幅を広げる必要あり．
 - 〈いずれの学会においても実情は厳しい，各学会誌の統合の可能性も探ったらどうか．
 - 〈理事会，評議員会のみではなく，議論する場を広げる必要あり．
 - 〈学会のポリシーの見直しも必要．
 - 〈現実的に日本語論文は若い会員の業績に繋がらないという意見もあるが，日本語で論文を書くことはたいせつで必要なことでもある．

7. その他

- 1) Island Arc の二重投稿問題について，I. A. 編集委員会より報告を受け，下記の処置について了承した．
 - ・対象となった 3 論文はリジェクトとする．
 - ・当該著者を筆頭とする論文は，今後 5 年間は Island Arc への投稿は禁止とする．
 - ・当該著者を本特集の first editor からは外す．
- 2) 事務局職員の勤続表彰規定について
 - ・運営財政部会長上砂理事より勤続表彰規定案が提案され，了承された．
 - ・副賞については，会計委員会で検討する．
- 3) 次回(4月7日)評議員会議題の追加の有無確認をし，次のように決定．
 1. 2006 年度決算(案)および 2007 年度予算 (案)，
 2. 各賞選考結果について，
 3. 名誉会員候補者の推薦，
 4. 日本地質学会プライバシーポリシー，
 5. 地質学雑誌の出版について，
 6. その他
- 4) AGU の若手の賞として故柵山雅則氏の名が候補となっていることについて，木村純一会員から，参考意見を求められた．
木村会員から，AGU に地質学会の「柵山賞」についての状況を説明，連絡していただくこととし，以後は AGU の判断することとした．
なお，この機会に，英語名は「The Geological Society of Japan Sakuyama Masanori Award」，同じく「小澤賞」については，「The Geological Society of Japan Ozawa Yoshiaki Award」とすることとした．